

## 評価の本質

岡崎市現職研修委員会理科部長 岩津小学校長 小島 寛史

学習指導と学習評価は、子供の確かな学びを構築する上で切っても切り離せない関係にあります。したがって、この両者を別物と捉えるのではなく、評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価していきます。このように、スパイラル状に指導と評価を位置づけることで、指導を充実させることが重要です。「指導と評価の一体化」の考え方は以前より提唱されてきましたが、新学習指導要領においては、カリキュラム・マネジメントや主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善との関係で、より一層その重要性が明確になりました。

「指導と評価の一体化」を図るためには、教師の指導のねらいに応じて、授業の中で子供の学びを振り返り、学習や指導を改善していくサイクルが大切です。こうしたサイクルを主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に生かすことで、子供自身が学習改善につなげることができるようになります。

つまり、「子供たちがどういう力を身に付けたか」という学習成果を的確に捉えることで、教師が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにしていきます。換言すれば、子供の「伸びようとする芽」を大切にし、その芽をしっかりと捉えられる（みる）「教師の目」に磨きを一層かけていきたいところです。

ここで、子供を「みる」ことに視点を置いてみます。「みる」には、いろいろな「みる」があります。

- ・「見る」：視覚によって、物の形や色・様子などを知覚することを表しています。
- ・「観る」：映画やスポーツ、芝居等を鑑賞するときや、観光等で景色や周囲をぐるりと見渡す場合に使われます。また、じっくりと見るときは「観察する」という意味合いで「観る」を使います。
- ・「視る」：「注意して見る」「見なす」「見る力」という意味があります。また、「観る」が全体を見ることを表すのに対して、「視る」は視点を一点に集中させてよく見ることを表します。
- ・「診る」：「病状を調べて判断する」という意味があります。
- ・「看る」：「見守る。世話をする。介抱する」という意味があります。

このように、子供を「みる」ときには、さまざまな「みる」を使うことができるようにしたいものです。学習評価という視点で「みる」を考えたとき、子供の言動を「見て」、得られた情報の中から目標に照らして詳細に観（視）ます。その観た情報からの表れだけでなく、その背景にあるものまで診て、そのときの状況に応じて子供を看ます（支援を差し伸べる）。こうした「みる」を重ねていくうちに、資質・能力まで含めた子供理解ができるようになります。このように子供をつぶさに「みる」ことによって子供の学びを支援していくこと、これこそが評価の本質と考えます。

実際に授業場面での一例を載せておきます。

- ・教師が出合わせた事象を子供が観ることで、興味関心が高まっていく。このときの子供のつぶやきを聞いたり表情を見たりした情報をもとに、子供の知的好奇心から問いへと醸成させていく。
- ・子供が立てた仮説をもとに実験を行う中で、子供が何に注目して実験を行っているかを視ていく。その中で、子供のこだわりを類推したり何に戸惑いを感じたりしているのかを診て、支援を差し伸べていく。また、子供の実験の様子を観たり背後にある考えを診たりする。
- ・意図的なかかわり合いによって子供に揺さぶりをかける中で、子供の考えを引き出し、その言動をよく診て、子供のこだわりに応じた支援を講じていく。
- ・全体を見渡して、困っている子供がいないかを観る。困っている子供がいたら、机間指導で支援する。つまづきそうな子供、支援が必要な子供の状況をさりげなく診て、その子に応じた支援をする。
- ・根拠をもとに思考を深めたり価値判断したりする子供の言動を視る。納得できない子供に対しては、何に納得できないかを診て、支援を講じる。

## 第130回 国研セミナー

### ◇第130回国研セミナー

日時：令和3年2月9日（火）17:30～19:00

場所：Zoomによるオンライン開催

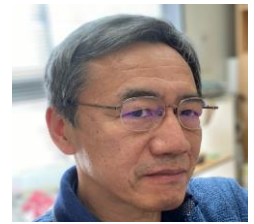
講師：自然科学研究機構 基礎生理学研究所 教授 高田 慎治 様

演題：動物のからだ作りの基盤となる細胞間情報伝達

細胞間がどのように情報伝達をしてからだを構成していくのか、基礎生物学研究所の高田先生から詳しくお話をしていただいた。一つ一つの細胞はただの寄せ集めではなく、秩序立ったまとまりでできている。そうした細胞の集団、社会性はどのようにしてできているのかをゼブラフィッシュの発生動画をはじめとする多くの資料を基に、詳しく説明していただいた。

細胞には、それぞれの機能を示す多能性幹細胞というものが存在し、それらは多数のシグナルによって、筋肉細胞や神経細胞などを構成していく。そのシグナルの伝達する方法を高田先生は研究している。その中でもWntという分泌シグナルにおける情報の伝達方法が、濃度勾配により拡散しているのか、局所に情報を拡散しているのか、さまざまな仮説があることがわかった。実際のWntの分布も画像で見せていただき、目には見えない細胞の情報を伝達するさらに細かなシグナルであるWntの存在を目の当たりにし、生命の神秘さを感じることができた。

講演後も、さまざまな質問に対して、丁寧にわかりやすく説明していただき、今後の研究への可能性や、高田先生の研究に対する情熱を実感することができた。



【高田慎治先生】



【ゼブラフィッシュの発生の様子】

## 第67回 岡崎市小中学校理科作品展「科学の祭典」

### 未来へつなぐ ～岡崎の知恵・生命・自然～

今年度は、感染症拡大防止のため、作品展はWebでの開催となりました。下記URLからアクセスして各学校の代表作品を閲覧することができます。ぜひ、ご利用ください。

#### 1 学校代表作品展示

- ・内容 研究、標本、製作物
- ・点数 小学校4点以内、中学校3点以内

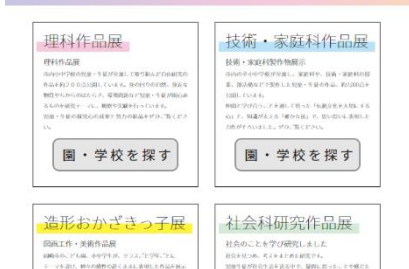
#### 2 表彰

- ・木村資生科学賞
- ・未来の科学者賞
- ・学校代表作品(出品者全員に賞状とメダル)

※11月14日（土）に木村資生科学賞、未来の科学者賞の審査・表彰を行いました。

受賞者一覧については、理科部報265号に掲載しております。

#### 3 URL <https://okazakids.com/index.php>



今年度、岡崎市理科部の活動にご協力いただきありがとうございました。理科部員の皆様のおかげで無事に終わることができました。また、今年一年、理科部報を読んでいただきありがとうございました。より一層、皆様に読んでいただける紙面としたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。